

各回調査における既存調査事項の削除及び変更要望

調査事項	令和5年			平成30年		平成25年	
	削除	変更	主な理由	削除	変更	削除	変更
総数	622	158		195	125	148	172
調査票甲・乙共通							
I あなたの世帯について							
1 世帯の構成	4	6	・国勢調査で把握しており、同じことを聞くことは調査への不信に繋がるため。 ・住宅・土地に関連する項目なく、前半にあると回答意欲を削いでしまう可能性があることから、後半への移行	0	1	2	2
2 世帯全員の1年間の収入	55	24	・回答者の忌避感が強く、未記入が多いため。 ・住宅・土地に関連する項目なく、前半にあると回答意欲を削いでしまう可能性があることから、後半への移行	23	8	27	8
II 世帯の家計を主に支える人について							
3 勤めか 自営かなどの別	10	0	・国勢調査で把握しており、同じことを聞くことは調査への不信に繋がるため。 ・住宅・土地に関連する項目なく、必要性が感じられない。	3	2	4	6
4 通勤時間（片道）	13	1	・全国家計構造調査などで調査しているため。 ・住宅土地に関連する項目でないため。	5	1	5	0
5 子の住んでいる場所	29	3	・住宅・土地に関連する項目なく、必要性が感じられない。 ・子が住んでいる場所までの時間を聞く必要はない。	13	1	4	33
6 現住居への入居時期	7	1	・国勢調査で把握しており、同じことを聞くことは調査への不信に繋がるため。 ・住宅・土地に関連する項目なく、必要性が感じられない。	0	2	2	6
7 前住居	16	5	・前住居の量数を把握していない世帯が多く、未記入が多いため。 ・記入者負担の軽減から、選択方式に修正	2	15	5	17
III 現住居について							
8 居住室	13	10	・廊下やトイレ等を除く量数又は面積は、記入者が把握しておらず、未記入が多いため。 ・居住室数のみでよいのではないか。	3	5	3	20
9 持ち家か 借家かなどの別	0	3	・同居していない親が所有する住宅に子が住んでいる場合も持ち家となるが、この場合、床面積等を記入できないことが多いため、定義の見直しをしていただきたい。	0	8	1	6
10 1か月の家賃又は間代及び共益費	4	0	・家賃については回答者の忌避感が強い。	1	3	0	3
11 床面積	21	19	・把握していない世帯が多く、回答誤りや未記入が多い。 ・うち1階の床面積は必要性が感じられない。	10	8	5	14
12 建築の時期（完成の時期）	2	3	・借家について把握していない世帯が多いため、持ち家のみにしてほしい。	3	8	3	2
13 台所の型	29	1	・資料への活用方法が不明のため、必要性が感じられない。	17	2	26	5
14 高齢者等のための設備等	3	0	・必要性が感じられない。	1	4	0	4
15 省エネルギー設備等	3	3	・必要性が感じられない。 ・蓄電システムやZEH住宅の戸数の追加	3	7	1	9
16 住宅の建て替え 新築 購入など	1	3	・親世代から相続した住宅の場合、親世代の取得方法を誤って記入する世帯が多かったため、設問をわかりやすくしてほしい。（例：現在の所有者）	0	0	0	0
17 平成26年1月以降の住宅の増改築改修工事等	2	2	・覚えてない世帯が多い。 ・テレワーク対応工事を追加してほしい。	3	6	2	2
18 平成26年1月以降における住宅の耐震診断の有無	4	0	・耐震改修工事の有無だけでよいのではないか。 ・把握していない世帯が多く、必要性を感じられない。	3	5	0	1
19 平成26年1月以降における住宅の耐震改修工事の有無	3	0	・把握していない世帯が多く、必要性を感じられない。	3	2	0	4
IV 現住居の敷地について							
20 所有地か借地かなどの別	2	3	・必要性が感じられない。 ・住宅の所有の関係付近に移行したほうがよい。	1	2	1	2
21 敷地面積	16	11	・把握していない世帯が多く、回答誤りや未記入が多いため。 ・床面積のみでよい。	2	5	3	5
22 取得方法・取得時期等	3	2	・把握していない世帯が多く、回答誤りや未記入が多いため。 ・取得方法については必要性が感じられない。	4	6	3	6

各回調査における既存調査事項の削除及び変更要望

調査事項	令和5年			平成30年		平成25年	
	削除	変更	主な理由	削除	変更	削除	変更
V 現住居以外の住宅及び土地の所有について							
23 現住居以外の住宅	3	2	・地域によって偏りがある内容のため、抽出調査としては不適当と思う。 ・乙調査票の所有戸数は不要	0	0	3	0
24 現住居以外の土地	4	0	・地域によって偏りがある内容のため、抽出調査としては不適当と思う。 ・必要性が感じられない。	1	2	4	1
調査票乙のみ							
III 現住居について							
10 現住居の名義	43	1	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	18	3	0	0
IV 現住居の敷地について							
22 所有地の名義	29	1	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	11	5	0	1
VI 居住世帯のない住宅（空き家）「その他」の所有状況							
26 住宅の所在地	4	2	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	0	0	0	0
27 建て方	5	1	同上	0	0	0	0
28 取得方法	5	2	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。 ・把握していない世帯が多く、「不明」を追加してほしい。	0	0	0	0
29 建築の時期	5	2	同上	0	0	0	0
30 居住世帯のない期間	6	1	同上	0	0	0	0
VII 現住居以外の土地の所有について							
31 現住居以外の土地	6	2	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	2	0	2	0
VIII 現住居の敷地以外に所有する宅地など							
32 土地の所在地	7	2	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	2	1	3	0
33 土地の所有形態	7	1	同上	3	0	2	1
34 土地の面積	13	3	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。 ・把握していない世帯が多く、「不明」を追加してほしい	2	2	2	0
35 土地の取得方法	11	2	同上	3	1	2	0
36 土地の取得時期	8	2	同上	5	0	2	0
37 土地の利用現況	7	1	・必要性が感じられない。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	2	1	2	1
38 土地の主たる使用者	8	1	同上	4	0	3	1
IX 現住居の敷地以外に所有する農地							
39 農地の所在地	22	3	・必要性が感じられない。農林業センサスで把握している。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	10	1	3	0
40 面積の合計	29	5	同上	11	2	4	0
X 現住居の敷地以外に所有する山林							
41 山林の所在地	21	3	・必要性が感じられない。農林業センサスで把握している。 ・乙のみの調査事項であり、市町単位の集計結果がないため。	10	1	3	0
42 面積の合計	28	4	同上	11	2	4	0

各回調査における既存調査事項の削除及び変更要望

調査事項	令和5年		主な理由	平成30年		平成25年	
	削除	変更		削除	変更	削除	変更
建物調査票							
住宅ごとに記入							
(1) 居住世帯のない住宅	7	2	・調査員の目視による判断が困難 ・二次的住宅・空き家の区別が困難なため、統合してほしい。	0	0	0	1
(2) 住宅の種類	4	0	・調査員の目視による判断が困難	0	0	1	0
建物ごとに記入							
(3) 建て方	3	0	・調査員の目視による判断が困難	0	0	0	1
(4) 構造	17	9	・調査員の目視による判断が困難 ・区分の統合、又は、調査票甲・乙への移行	0	2	2	7
(5) 腐朽・破損の有無	16	0	・調査員の目視による判断が困難	0	0	5	2
(6) 建物全体の階数	3	0	同上	0	0	0	0
(7) 敷地に接している道路の幅員	30	2	・必要性が感じられない。 ・調査員の目視による判断が困難である、危険が伴う。 ・調査票甲・乙への移行	0	0	3	1
(8) 建物内総住宅数 (長屋建、共同住宅のみ)	5	0	・調査員の目視による判断が困難 ・単位区設定図で把握出来るため。	0	1	0	0
(9) エレベーターの有無等 (共同住宅のみ)	11	4	・建物内に入れられないこともあり、調査員の目視による判断が困難 ・一定の普及率が見込まれるため。	0	0	0	0
(10) オートロックの別 (共同住宅のみ)	8	0	・建物内に入れられないこともあり、調査員の目視による判断が困難 ・調査票甲・乙へ移行	0	0	0	0
(11) 高齢者対応型住宅の別 (共同住宅のみ)	7	0	・建物内に入れられないこともあり、調査員の目視による判断が困難 ・調査票甲・乙へ移行	0	0	1	0